

昭和女子大短大	刑部	昭子
	○椎名	米子
	犬塚	浩子

1. 第1報で袖山の高さについては好結果をえた。しかし、その際袖ぐりにとかく問題が生じたので、今回はこの袖ぐり線の書き方について計測上と、着用実験を行なって好適な袖ぐり線を見いだしたいと思い、本実験を行なった。

2. 昨年と同じ体型の者5名について、①袖山の高さは $AH/4 + 3\text{cm}$ 、従来の製図方法の袖ぐりの袖を作製して着用させ、外観上・技能上の面より補正を行なった。②腕を細部にわたり計測し、実測値を求めた。③補正における袖ぐりと、実測値の関係を検討し、好適袖ぐりを求めた。④無作為にモデルを選び、上記好適袖ぐりにて袖を作製し、着用させて外観・機能面より好適袖ぐりであることを確認した。

3. ①後三角筋より前三角筋が隆起していた。②三角筋と上腕二頭筋の分岐点、三角筋と上腕三頭筋の分岐点の長さに差があった。③A Bの結果から、袖ぐりの製図は基本線を前 $AH/2 + 0.5\text{cm}$ 、後 $AH/2 - 0.5\text{cm}$ とする。基本線の分割は前を5等分、外側へ1/5点で1.8cm、2/5点で1.5cm、3/5点で交差させ4/5点で1cm内側に入れる。後は6等分、外側へ1/6点で1.5cm、2/6点で1.3cm、3/6点で交差5/6点で0.8cm内側に入れる。いせこみ分量は前2/3、後1/3の割合にして大結節の部分にいせこむ。